

弘前発 紙リサイクル共創モデル実験

青森 広域連携を目指して

～地域循環共生社会づくり～



2025年 月 日



要・ロゴ使用許可申請

目次

- ① 啓発活動のストーリーイメージ
- ② 啓発活動の多様な協働体制イメージ
- ③ 弘前市の強みを生かした循環モデル
- ④ 当面の啓発活動イメージ「雑がみさまを探せ！」を軸に
- ⑤ 第三次 弘前市 環境基本計画との親和性
- ⑥ 期待される成果イメージ
- ⑦ 本提案への思い
- ⑧ 将来的な啓発活動の広域展開への期待

(参考)

- ・ 雑がみさまを探せ！（雑がみ回収促進社会実験）
- ・ 紙リサイクルの重要性
- ・ 紙リサイクルとSDGs
- ・ Towards 2030 & Beyond ・ 古紙センターPDCA

1. 啓発活動のストーリーイメージ

各自治体では、ゴミ焼却施設の更新・統合や最終処分場キャパの課題が顕在化しつつあり、**資源循環型モデルの更なる推進**が急務。

本提案は弘前市を始め、県内の**各自治体が有するポテンシャルを最大限**に活かし、**「人・資源・地域経済」が循環**するローカル・エコシステムの推進を目指すもの。

紙リサイクル（特に雑がみ）を中核とした地域共創モデルを推進し、**「環境」「教育」「地域経済」**の3分野を横断的に結び付けることで**「見えるリサイクルの輪」**を目指す。

導入に際しては、**既に弘前市が有する**地域資源、制度、ネットワークを**最大限活用**しながら、持続可能な紙リサイクルモデルを**「啓発活動」を通じて「可視化」**する。

(起) 紙ごみや雑がみをめぐる課題の再認識

(承) 青森県の各市町村がこれまで積み上げてきた積極的施策と地域資源の可視化

(転) それらを有機的に統合し、**地域全体の参加型**で展開する循環モデルづくり

(結) その成果が県民生活の質を高め、**青森ブランドと環境施策の発信力**を高める

1. 啓発活動のストーリーイメージ

資源循環を共創の中核主体として、雑がみ回収・利用を地域コミュニティに根付かせる。

多様な生活者・事業者・行政を結び、その成果と意義を可視化・共有することで、持続可能な地域共生圏の形成を目指す。

3つの軸を有機的に構造化する。

(1) 「見える化」×「つながる化」

自治体や企業、団体との共創事例を公開し、「つながり」の存在を社会に共有。

(2) 参加共感型コミュニケーション

情報の一方通行脱却「わかる・できる・続ける」体験を設計。

(3) 地域コミュニティ内経済・価値の共創

地域の循環共生圏、地域経済や自治体の課題解決と一体化するメッセージを意識。



2. 啓発活動の多様な協働体制イメージ

行政

各市町村（資源リサイクル関連、福祉、教育委員会等）：施策調整、拠点整備、学校授業導入、公益施設運営

教育機関

小中高、大学（弘前大、学院、柴田、医療福祉短大等）EMS、新入生環境授業、ボランティア活動、PBL型地域参加

福祉・高齢者団体

就労支援B型事業所、社会福祉協議会、老人クラブ等：拠点運営補助、見守り交流

企業・商工会

スーパー、包装印刷、食品、信金、運輸等：店頭広報、ポイント制度連携、雑がみ袋広告、事業系雑がみ回収、SCCI連携

市民団体

PTA、NPO、環境ボランティア：地域拠点協力、イベント運営、住民啓発

メディア・研究機関

地元新聞社、TV、SNS、大学研究室等：広報支援、効果測定、全国展開モデル評価

静脈・製紙産業

東北エリアの製紙工場、古紙問屋、回収収集業者：雑がみ受入、回収・品質管理、搬送

スポーツ団体（少年・プロ）

少年野球団・サッカー団等：集団回収、資源回収協力、啓発活動、保護者との家庭連携、エリア内のプロ球技チーム連携

需給両業界団体

古紙センター東北地区委、東北製紙原料組合、青森県エコ・リサイクル事業協組、弘前資源再生事業協組：活動全般支援

3. 弘前市の強みを生かした循環モデル

地域コミュニティの結束力

町内会や市施設を中心とした地域活動が盛んで、分別啓発や拠点回収の担い手として住民が主体的に関わりやすい土壌がある。

教育機関との連携

弘前大学などの高等教育機関が立地し、探究学習や学生の地域参画を通じて、紙資源循環の学びと実践を連動させやすい。

環境啓発の基盤施設が充実

環境学習センターや出前講座制度などが整っており、雑がみ分別をテーマにした普及啓発活動を行政と協働で展開しやすい。

市民の環境意識の素地

ゼロカーボンシティひろさき・SDGs未来都市計画やリサイクル活動が浸透しており、雑がみ回収を次の行動ステージとして市民の理解と参加を得やすい環境がある。



持続可能なまちづくりが進む「循環のまち弘前」

弘前市は農業・加工・観光の一体的な産業構造を有し、さらに大学や研究機関、市民団体が連携した文化・教育資源が豊富である。加えて、ゼロカーボンシティ宣言やSDGs未来都市に選定され、持続可能な地域づくりに向けた多主体協働の推進体制が整っている。この強みに対し、雑がみ掘り起こしモデルは、市民・事業者・学校・自治体が一体となって「更なる」紙資源の回収・再資源化を進める点で、高度な協働基盤と合致する。また、回収による可燃ごみ削減はCO₂排出抑制にも直結し、市の地球温暖化対策やリサイクル率向上のKPI達成にも寄与する。地域特性と既存施策を活かし、環境・経済・社会の三側面で相乗効果を生む点で本啓発活動との親和性は高い。

また、東北広域での“紙資源の地産地消”を再確認することで、輸送コストや環境負荷軽減の強みや、地域内経済の循環性の情報発信を充実化し、地方都市に於ける全国のベンチマーク化を志す。

新規設備や格段の追加投資を前提とするのではなく、すでに地元地域が有する地域資源、制度、ネットワークを最大限活用しながら、段階的かつ持続可能に展開する「**啓発モデル**」を可視化。

4. 当面の啓発活動イメージ「雑がみ様を探せ！」を軸に（2025～26年度）

雑がみ啓発と学校教育との接続

市内小中学校において紙リサイクルに関する啓発活動「雑がみさまを探せ！」を通じた出前授業やワークショップを実施。「子供から家庭を変える、社会を変える」児童生徒や保護者の家庭内分別を促進。

広域エリア内の製紙工場との連携

東北域エリアには紙リサイクルの地域内処理・利用が可能な製紙工場の存在があり、それらとの連携を通じた、紙資源リサイクルの地産地消を更に推進。

スポーツ団体との連携

スポーツ少年団の資源回収活動協力、運動と公共活動の融合を図る。集団回収活動の活性化、世代間交流の機会にも繋げる。また県内のJ3・JFL、B2、JABA等、球技チームとの連携を通じ、試合時の「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーンを図る。

市イベント・施設に於ける啓発活動

多くの市民が参加する市民イベント、祭り、環境フェアやリサイクルプラザ、公民館などを通じた「雑がみさまを探せ！」啓発を通じ、一人ひとりの参画意識醸成を図る。

大学生ボランティアとの連携

学生団体などを通じた、大学生を募集、「雑がみさまを探せ！」運動の支援を通じた持続的な啓発活動の組織力強化、学生自身への社会課題解決体験のきっかけとする。

地元企業との連携による資源循環

大規模商業施設、商店街店舗を通じた、地域ポイント利用・認証制度（「弘前リサイクル応援店」等）による消費者との接点強化を推進。企業の紙袋への「雑がみ回収に利用」を訴求する表示協力。

5. 第三次 弘前市環境基本計画（2021～2027）との親和性

ごみ減量・資源化の推進

市計画は、家庭・事業系ごみの1日当たり排出量削減やリサイクル率向上を主要指標に掲げ、ごみ問題への対応を重視している。本モデルは、紙資源の回収・再資源化をコアとしており、ごみ減量/リサイクル促進の計画目標と親和する施策である。

出前講座・環境教育との融合

市計画では、出前講座などを通じて、環境意識を早期に醸成し、市民主体の行動変容を促す教育施策を重視。本モデルにも学校や大学、学生リーダー制度など教育連携が含まれており、環境学習と日常の資源回収（雑がみ）行動を結びつける点で、双方の教育的効果を高めることが可能である。

ゼロカーボンシティ構想

弘前市は2050年実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）宣言を掲げ、地球温暖化対策計画において温室効果ガスの削減を市域で実施する方針を明記している。雑がみ掘り起こしを通じた紙リサイクルは埋め立て・焼却削減と輸送エネルギー削減に寄与し、脱炭素型循環社会構築に寄与する。

市民・事業者の協働体制

市計画では「ひろさき環境パートナーシップ21」など協働体制を軸に、環境課、市民、事業者がPDCA循環で取り組む構造を明記している。本モデルでも、学校・拠点設置・事業所・イベントなど多主体の協働を想定しており、このガバナンス構造と整合し、相乗効果の発揮も期待できる。

第三次弘前市環境基本計画

～あずましい環境の創造と次世代への継承～



2021（令和3）年3月

6. 期待される成果イメージ（順不同）

- ・ 雑がみ回収量の増加、可燃ごみに占める紙ごみ比率減少
- ・ 紙ごみによるCO2排出削減効果の定量化
- ・ 域内製紙工場とのマッチングによる資源地産地消モデルの加速
- ・ 小中高校生・大学生・高齢者・地域住民のリサイクル意識向上と世代間交流の促進
- ・ 高齢者との交流機会創出による地域コミュニティの活性化、孤立防止
- ・ 障害者の地域参画による共生社会モデルの実証と福祉的就労の場の創出
- ・ 紙リサイクル業界における次世代担い手の掘り起こしと職業理解の深化
- ・ 行政・住民・業界がともに成果を実感できる、参加型の循環型地域社会モデルの形成
- ・ 近隣自治体、東北各県、更に全国への波及効果 等々…………….

↓ 5%

燃えるごみ量削減

「雑がみさまを探せ！」
を通じた分別底上げ

↓ 5%

ごみ排出量削減

1人1日当たりの
ごみ排出量削減

↓ 15%

紙ごみ比率減少

家庭系の燃えるごみに
占める紙ごみの比率減少

1000+

啓発参加者数

多世代の市民参加による
コミュニティ活性化

7. 本提案への思い

これら一連の対策は、弘前市を始めとした「先進的な施策を展開」してきた**各自治体**において、**すでに個別には推進されてきた**要素である。

今回の**啓発モデルづくり**では、それらを有機的に結合し、回収・啓発・再資源化・教育・経済の各分野が一体的に連動する**“リサイクルの輪”**として、**県民に視覚的・体感的に可視化される仕組み**を目指したい。

これにより、県民一人ひとりが**地域循環への参画を一層、理解・実感**でき、**長年積み重ねてきた資源循環の取り組みが、より広く認知**され、成果として花開くことが望まれる。

SDGs未来都市、ゼロカーボンシティ宣言都市である弘前市において、紙ごみを中心とした可燃ごみ削減の実践は、温室効果ガス削減や持続可能なまちづくりの成果指標とも直結するものであり、**地方自治体の環境政策の模範事例**として、他自治体に発信されることを期待する。

8. 将来的な啓発活動の広域展開への期待

弘前市での「雑がみ様を探せ！」を通じた啓発モデルは、段階的に隣接する中南地域の黒石、平川等を始め、東青、西北、上北、三八地域にも展開可能なスケーラブル（拡張可能性）構造を有する。

まず2025～26年度に弘前市で啓発活動はじめ、諸課題の整理を実施し、成果を蓄積。

2026～2027年度には地理構造、リサイクルインフラの観点で本モデルとの親和性がある、黒石市、平川市等の自治体と連携拡大し、広報、リサイクル啓発の共通化を図る。

2027～2028年度以降には更に、県内最大都市である、東青地域の青森市に繋がるモデルへと展開し、静脈産業と自治体のクロス連携を加速。段階的・実証型のモデル普及を通じ、広く県民の紙リサイクル参画への理解向上に繋がることが望まれる。

以後、更に県内主要市などへの拡大を目指し、2030年頃には同様に検討を予定している岩手、秋田等との広域環境政策への反映を目指す「北東北・雑がみ資源循環ネットワーク」を念頭に置いた、より広域に於ける資源リサイクルの全体最適化活動なども視野に入れたい。

(参考) 雑がみさまを探せ! (雑がみ回収促進社会実験)

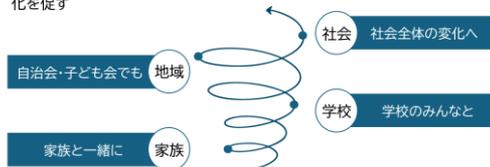
目的

雑がみの認知度向上並びに分別・回収の習慣づけを目的とした啓発活動
⇒ 幼少期(学童期)からの分別習慣の効果は大きく、未来にわたって環境配慮行動を行う人材育成につながる



目的

子どもを発信源として家族と一緒に取り組むことで、同居する親世代の意識変化を促す



「子どもを変えていくことで親を変え、社会を変えていく」

効果(自治体・業界)

可燃ごみに捨てられる雑がみ回収促進を進めることで、可燃ごみの削減や新たな製紙原料の確保につながる



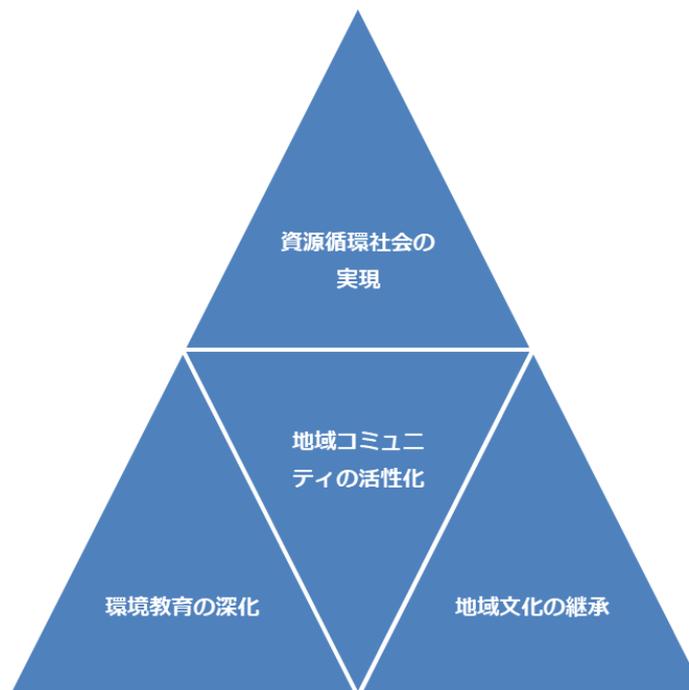
「雑がみさまを探せ!」は、いかにして子供たちに家庭での雑がみ分別に誘導するかを、大阪大学大学院経済学研究科・松村真宏教授(仕掛け)と当センターが連携する新たな試み。

仕掛けのアプローチとは、正論(従来の正攻法)で解決しなかった社会課題を正論は使わずに参加者(小学生)が興味を持ちそうな「仕掛け」を利用することで、結果的に望ましい行動を実現し、その後も親世代を絡めて、家族で継続しやすい仕掛けを狙う。

子供達への「仕掛け」コンセプト
紙=カミ(神) ⇒ 家庭の中には、神(紙)様・「雑がみさま」が宿っている。

一般向け

(参考) 紙リサイクルの重要性



紙リサイクル、とりわけ家庭や地域から排出される「雑がみ」は、その性質上、行政・業者・市民の協働によってのみ更なる分別と回収が可能となる分野。

また、資源循環・地域交流・環境教育・福祉・社会包摂といった複数の公共的価値を同時に実現できる特性を持ち、地域循環共生社会の実装モデルとして即効性が期待される領域。

(参考) 紙リサイクルと SDGs

SDGs ・ 紙のリサイクルが果たすべき役割

(2022年制定)



4 質の高い教育をみんなに

- 紙のリサイクルの役割
⇒紙の再生品の利用、リサイクルを学べる教育の機会を提供する



11 住み続けられるまちづくりを

- 紙のリサイクルの役割
⇒使用済の紙を分別して再利用を図り、資源の有効活用を図る



12 つくる責任 つかう責任

- 紙のリサイクルの役割
⇒製紙業界のリサイクル可能な商品開発の推進に貢献する
⇒消費者の持続可能な社会形成への参画意識を醸成する



13 気候変動に具体的な対策を

- 紙のリサイクルの役割
⇒ごみの資源化による脱炭素社会の実現に貢献する



15 陸の豊かさも守ろう

- 紙のリサイクルの役割
⇒森林資源の持続可能な利用に貢献する



17 パートナーシップで目標を達成しよう

- 紙のリサイクルの役割
⇒多様なステークホルダーが連携し、持続可能な社会を実現する

日本の紙リサイクルは国民の分別意識の高さや善意に支えられ、また長年にわたる関係者の努力の結果、資源の有効利用や廃棄物の減量化といった循環型社会の形成にも大切な役割を果たしてきた。

当センターは、消費者や事業者を始めとした紙リサイクルに関わる多様なステークホルダーの皆様とともに、広報啓発、調査研究等の事業を通じた古紙の回収や利用の促進に向けた約半世紀弱の歴史を積み重ねている。

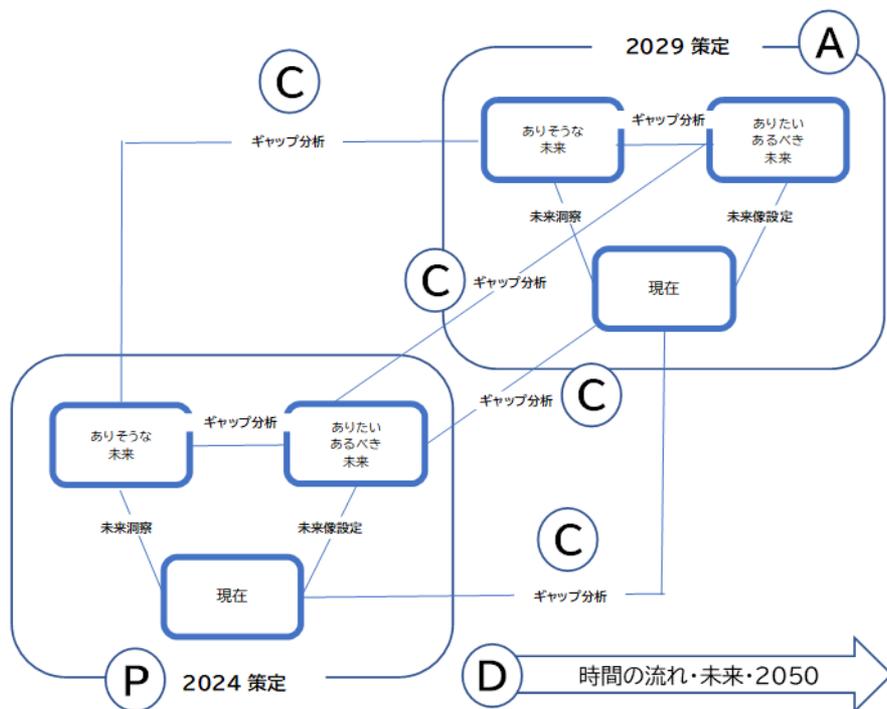
時代背景や社会が変化してきた現在も変わらず、むしろ様々な社会課題が深刻化し、国際社会がSDGs（持続可能な開発目標）の達成など持続可能な社会の実現を目指す中、原点に立ち返ったセンター活動がより一層重要になると考える。

当センターは創立半世紀の節目に向け、活動を支えていただいている皆様とともに、まずは紙リサイクルとSDGsとの関連性を再確認することを2022年にスタートした。今後も多様な立場の方々との共通言語ともいえるSDGsを通じて、小さな連携の積み重ねを大きな力に繋げ、紙リサイクルの更なる発展を目指す。



(古紙センターSDGsレポート)

(参考) Towards 2030 & Beyond・古紙再生促進センターPDCA



当センターは創立半世紀を迎えたが、その節目に当たり多くの関係者の方々から寄せられた「20」の中長期課題（サステナブルチャレンジ2050・共創共生）をお示しした。本年度から、一連の課題対応に向けての具体的な対策や、新たな試みを開始するに当たり、ロードマップイメージである「Towards 2030 & Beyond」を策定した。

様々な社会課題解決に向けた布石は2030年までがラストチャンスであり、その影響が未来の可能性を左右すると言われる時代にある中で、環境・経済・社会側面の統合的向上や、リサイクルに関わるマルチステークホルダーとのパートナーシップを念頭に置いた事業を通じて、循環型社会形成に関する連携・協働のつなぎ手としての、更なる努力が当センターにも求められている。

今後の課題対応については需給両業界の協働に加えて、これまで以上に広く、紙リサイクルに関わるステークホルダーが、改善できる技術や意識改革を総動員した、統合的なシナジーや全体最適を議論すべき時期にある。



「サステナブルチャレンジ 2050・共創共生」



「Towards 2030 & Beyond」



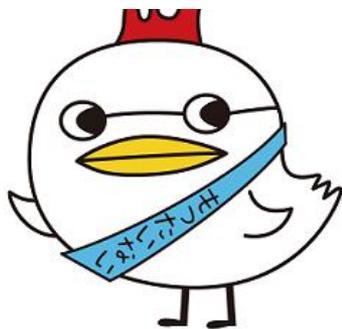
「創立 50 周年記念誌」

啓発協働の可能性についての「一例」（順不同）

本モデルの定着化に向けた**啓発実験事業** **「雑がみさまを探せ！」** を軸に（2025年～2026年）

- ・市内大学生の啓発ボランティア確保（5大学・1万人）
弘前大学、弘前学院大学、柴田学園大学、弘前医療福祉大学、放送大学青森学習センター等の啓発ボランティア確保。雑がみさまを探せ！」支援を通じた、継続・持続的な啓発組織力強化、学生自身の社会課題解決体験のきっかけとする試み。
- ・弘前大学EMS（ISO14001）連携
環境教育ISO学生委員会、生協、新入生啓発授業機会、学園祭でのブース出展、継続的な啓発掲示
- ・大学コンソーシアム学都ひろさき（5大学）との啓発活動連携、協力依頼
- ・弘前市と地域連携等の包括的な協定締結大学との組織連携検討（弘前大学）
- ・ひろさき環境パートナーシップ21（HEP21）との「雑がみ様を探せ！」啓発連携、こどもエコクラブ へのアプローチ
- ・弘前大学附属小学校、中学校での「雑がみ様を探せ！」啓発授業
- ・弘前市商工会議所、青年会議所との連携、関連企業先での継続的な「ローテーション」回収運動
オフィス町内会、エコストア・エコオフィスへの「雑がみ様を探せ！」アプローチ。
- ・ブランデュー弘前FC（東北地域L）、弘前アレヅ（JABA）の地域貢献連携、試合会場での「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーン。青森ワッツ(B2)、ラインメール青森FC(JFL)も視野に。
- ・弘前市廃棄物減量等推進審議会、ゼロカーボンシティひろさき 等の活動との連携、助言依頼、市支所、公民館、環境啓発施設等を通じた「雑がみさまを探せ！」啓発、市民（主婦）意識ヒアリング、市民ネットアンケート
- ・市内小学校、公共施設、商業施設への「雑がみ様を探せ！」モチーフ回収箱設置
- ・弘前市の環境イベント、WS（雑がみ様を探せ！）、キャラクターコラボレーション 等々……………

キャラクター コラボレーションイメージ



もったいない・あおもり
県民運動キャラクター
「エッコー」



弘前市キャラクター「たか丸くん」エコバージョン



要・ロゴ使用許可申請